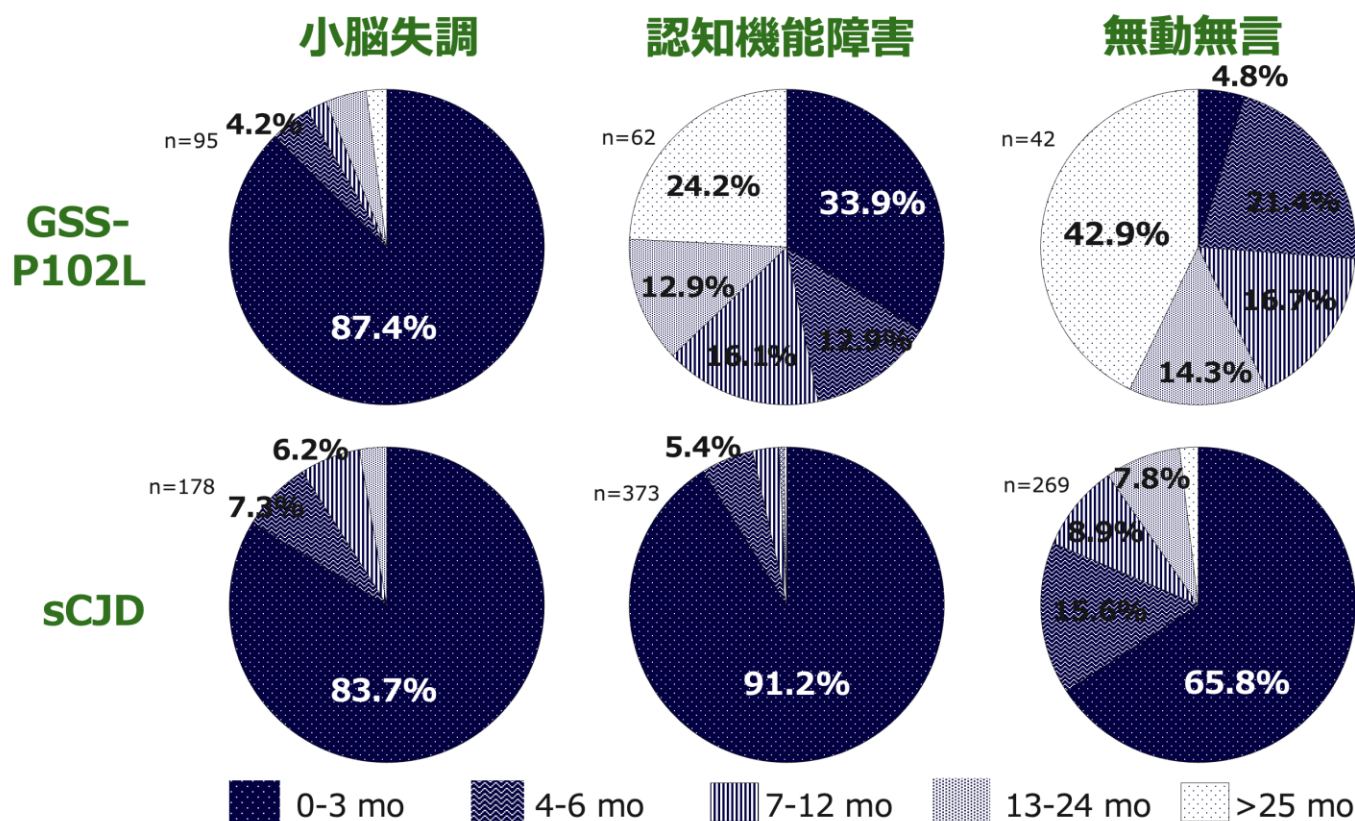


GSS-P102Lの臨床疫学的研究

研究分担者：国際医療福祉大学脳神経内科学 村井弘之



解 説

1. GSS-P102L と sCJD のそれぞれにおいて、小脳失調、認知機能障害、無動無言がどのタイミングで発現したかを示したグラフである。
2. 初発症状が小脳失調だったものはGSS-P102Lでは80%、sCJDでは19%であったがいずれも3ヵ月以内に8割以上が小脳失調症状を示した。
3. 認知機能障害については、3ヵ月以内にsCJDの91%が発症したのに比し、GSS-P102Lでは34%であった。発症2年でも、24%は未発症だった。
4. sCJDでは3ヵ月で66%、6ヵ月で81%が無動無言になったが、GSS-P102Lでは3ヵ月で5%、6ヵ月で26%と、両者で大きな差があった。